

全学FD・SD研究集会 概要

日時：令和6年3月6日（水）15:00～16:00

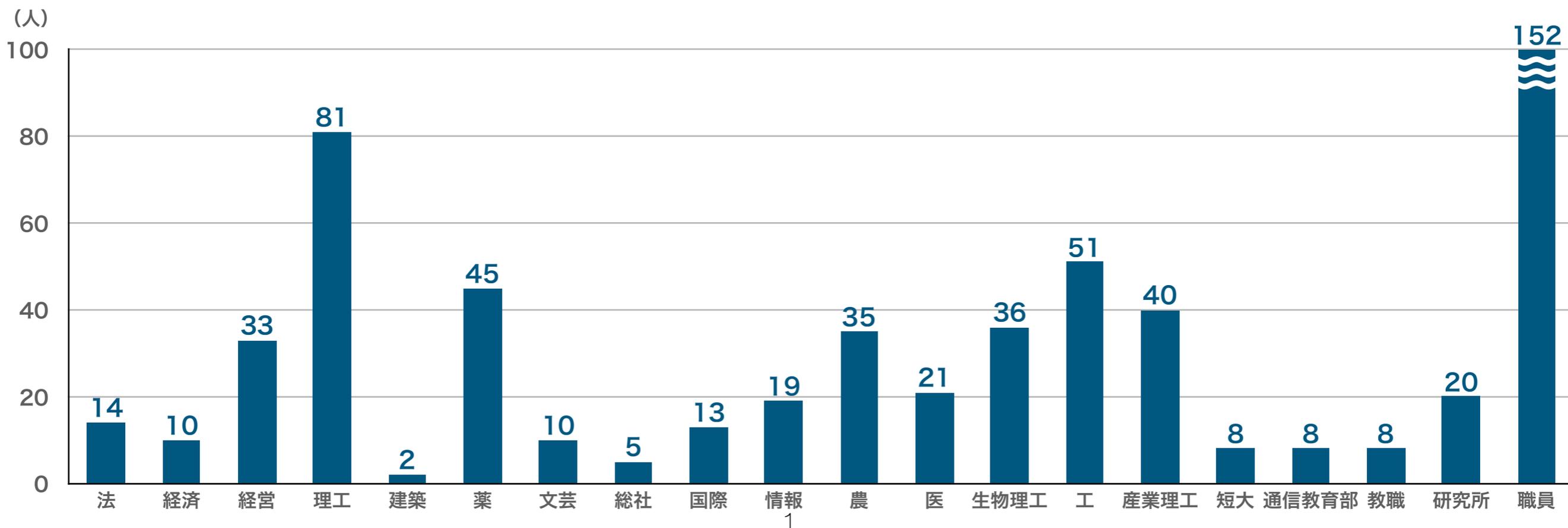
場所：Zoom

テーマ：『IRを活用した自己点検・評価と達成度評価 -今、大学に求められていること-』

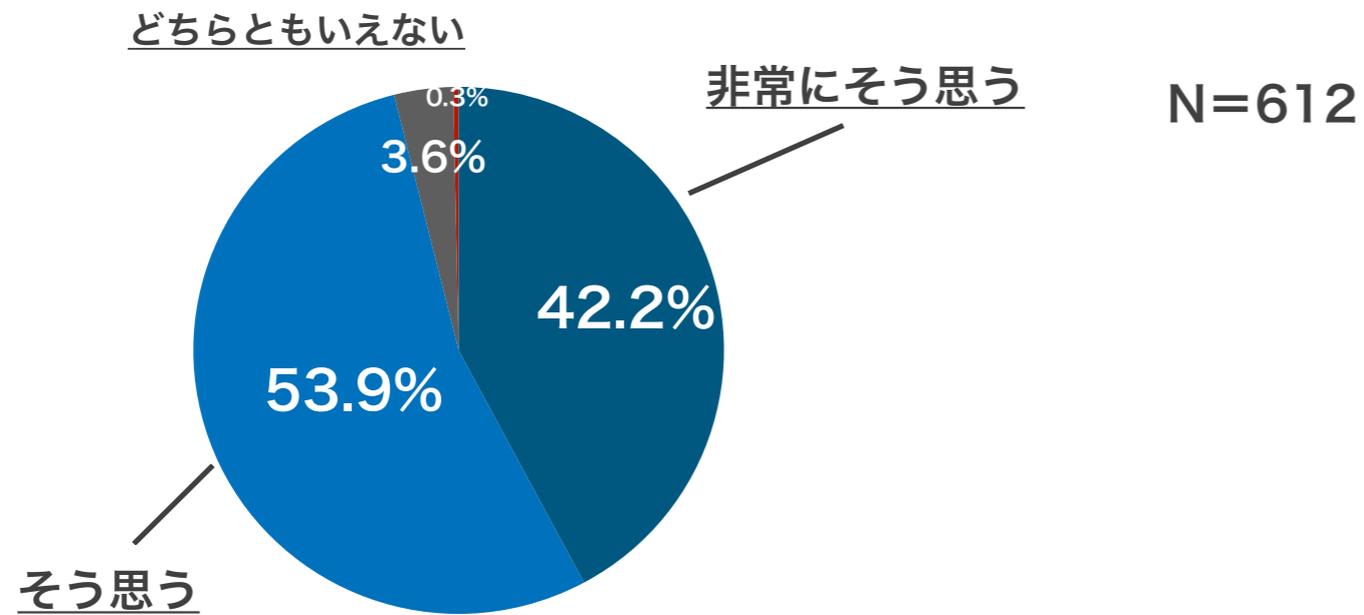
講演者：渥美 寿雄氏 IR・教育支援センター IR部門長/内部質保証担当副学長/自己点検・評価委員長

竹中 喜一氏 IR・教育支援センター 准教授

参加者内訳 計：612人（当日視聴者）



Q1 講演『IRを活用した自己点検・評価と達成度評価』の内容は参考になりましたか



<p>Q2 今回の全学 FD・SD 研究集会の全体的な内容について、ご意見・ご感想がございましたらご記入ください。</p>
<p>卒業アンケートの必要性を再認識しました。</p>
<p>このような貴重な講演を拝聴し今後の業務に活用したいと考えます。</p>
<p>文科省が大学に求めていることが何か勉強になりました。</p>
<p>IR を用いた教育効果の客観化とその開示の重要性が分かった。</p>
<p>学生が楽しくのびのびと学べる環境を作っていければと思います。</p>
<p>他大学を含め IR を活用した自己点検と PDCA サイクルによる成果の実例などお聞きしたい。</p>
<p>教えたという事実が大事ではなく、学生が学んだかどうかが大事であるという当たり前だが、重要なことを再確認した。</p>
<p>達成度評価について理解が深まった。</p>
<p>GPS-Academic や卒業時アンケートの目的がよく分かりました。</p>
<p>非常に役に立ったと思います。引き続きこのような有益な情報を教えてください。</p>
<p>GPS-Academic と卒業時アンケートの重要性を認識できて有意義であった。</p>
<p>評価可能性の重要性と難しさを実感しました。</p>
<p>社会からの要請に応じた学生を教育し輩出することの必要性が益々高まっていることが理解できました。</p>
<p>お恥ずかしながら、卒業アンケートの意味がようやく分かりました。ゼミ生に申し伝えます。</p>
<p>ご質問ご回答いただきありがとうございます。IR、大変興味がありましたのでよき学びとなりました。業務に活かしていければと存じます。</p>
<p>なぜ、このような評価が求められるようになったのかという時代的・政治的な背景をお話しいただければと思います。</p>
<p>第4回の認証評価に向け、これから取り組んでゆく内容が具体的にイメージ出来てとても参考になった。セミナー等でより認識を深め、学習成果の可視化に取り組んでいきたい。</p>
<p>卒業後、国家試験のある学部とない学部での3つのポリシーの違いや IR 分析の比較を表面化してほしい。</p>
<p>非常に参考になりました。自己点検評価を重ねるごとに大学に求められている教育内容が厳しくなっている。</p>
<p>総論よりもケーススタディーがあるとうれしいです。</p>
<p>教育機関の大学として、責任ある点検が求められていることが再確認できた。</p>
<p>大学に求められていること、これからどのように対応していこうとしているかについて、よく理解できました。ありがとうございました。</p>
<p>アンケートや GPS-Academic の重要性も理解でき、大変参考になりました。</p>
<p>評価される立場として、重要な点が整理できて良かった。</p>

<p>大変重要な内容なので、自己点検書作成段階などにも、頻繁に同様の内容を取り上げていただければと思います。</p>
<p>卒業研究アンケートや GPS-Academic の重要性がわかりました。</p>
<p>認証評価のことについて、非常によくわかりました。</p>
<p>今後に備えた対応の必要性を強く感じました。</p>
<p>自己点検について、説明を聞くことができて、有意義であった。</p>
<p>IR を活用した自己点検・評価と達成度評価について大変勉強になりました。</p>
<p>この2年くらい点検評価を書いているが、その重要度と何が求められているかがよくわかった。非常に参考になった。ありがとうございました。</p>
<p>報道ではすぐ近大の人気の高くなっているの、第一志望が多いのかと思っておりましたが、かなり低いので、びっくりしました。もっと魅力的な大学にしないとダメなんですね。</p>
<p>基本的なところから解説いただいたので、大変わかりやすかったです、ありがとうございました。</p>
<p>竹中先生のお話をもう少し深いところまで伺いたかったので、1時間半のプログラムでもよかったかもしれません。</p>
<p>達成度評価の実態やタイムスケジュールなど、詳しいことを理解することができました。ありがとうございました。</p>
<p>認証評価やこれを基準とした自己点検が真に特色ある大学の推進に有効に働くことを願うばかりです。</p>
<p>「学生のための教育」を今後も意識して改善していきたいと思います。ありがとうございました。</p>
<p>興味深い内容であった。私が基準協会では審査員を勤めた際には、各学部・事務部の取り組みを後押しするような意味でコメントを書いたこともあった。</p> <p>評価機関は粗探しをするだけではなく、よいものは積極的に取り上げてくれるということももっと伝えたいと感じました。</p>
<p>短い時間の中での的確な説明であったと思います。ありがとうございました。</p>
<p>外部評価をうまく利用しながら大学の発展につながればと思います。</p>
<p>求められることと、達成度を測る基準が良くわかりました。</p>
<p>特に GPS-Academic の3年生受検率の向上を意識したいと改めて思いました。</p>
<p>学生の各段階でのアンケート結果を見る機会がなかったため、参考になりました。</p>
<p>アセスメントプランについての理解が進みました。ありがとうございました。卒業アンケートについてはゼミ生に強く指導を行いたいと思います。本日は、ありがとうございました。</p>
<p>医学部における認証評価については知っていたが、他学部での取り組みについても知れて良かった。</p>
<p>ご説明いただきありがとうございました。</p>
<p>認証評価機関について理解することが出来ました。</p>

IR は Institutional Research の acronym であることと, GPSAcademic,卒業生アンケートの重要性がわかりました。
大学の評価基準、その評価に対する考え方等、大変勉強になりました。ありがとうございました。
今回の研修で、喫緊の課題、問題点は見えたが、具体的にどうしていくかが正直難しい。また別の機会に具体的な話を聞きたい。
今回紹介していただいた対応を行うにあたり、取り組みに必要な情報をできるだけ早めにいただける対応をお願いしたい。
近畿大学の学生は賢いので、卒業アンケートでは忖度した回答が得られることでしょう。追跡評価が不可欠と思います。
自己点検の必要性は十分に理解しているが、様々な作業について五月雨式に依頼されるので、業務量が肥大化するばかり。合理的な作業・方法をご提案頂きたい。
自己点検・評価と達成度評価の重要性が認識できました。ありがとうございました。
審査を受ける準備は大変ですが、継続的な自己診断としては必要なかも知れないと思いました。
年、年での到達目標が示され、たいへんよく理解できました。
学生に関する未活用の情報が多くあり、IR への本格的な取り組みの必要性を感じています。学部での個別の取り組みをご支援いただくとありがたく存じます。
CPS や卒業アンケートの結果を改めてこうして分析して講演していただけると、職員として何をしなければいけないかが理解できる。
卒業時に数値化して測る力以外の力も様々にあると考える。また、卒業後 10 年、20 年と経ったあとのアンケートなどもできるとよいと思う。
今回のご講演で、自己点検評価等の流れと概要はとてもよく理解できました。もし次回機会がございましたら、本学として具体的にどのような点に力を入れているか、どのような問題に特に注意して解決していこうとしているかなど、より具体的な事例について知りたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。
大学の教育改善に向けての方向性は大筋理解できましたが、実際に実行していくとなるとそれなりの組織の編成が必要になるように思えました。委員会レベルではなく学部を主とした上意下達の、それなりに力を持った組織の編成が必要と思われまます。
新入生や卒業生の回答について詳細を知りたいと思いました。
3 つのポリシーに対するアセスメントが必要なことが理解でき、今後それをどのように活用するのかも理解できた。しかし、講演の中の質問にもあったように、大学としてのオリジナリティーを失うようなことになりかねないのではないかと感じた。
卒業アンケート・卒業生アンケートの結果公表は是非お願いします。
少しいの外れかもしれませんが、ディプロマポリシーの満たし具合を厳密に査定すると、留年する学生が増えるのではないかと感じました。

<p>ウェビナーだと同僚たちの雰囲気がわからないので議論が難しく、物足りない。竹中先生には各学部を行脚して学部ごとに FD 研修会でお話いただくことも必要ではないか。あと、卒業アンケートといえば、近大フェアか何かの際にたまたま回答を見たところ、自由記述に職員の対応に関する不満が数多く記載されていたように思う。私自身は自分がアンケート調査するときでも自由記述欄に目が行ってしまうので、調査設計と回答内容の両方に様々な問題を孕んでいるように感じた。</p>
<p>GPS アカデミックや卒業アンケートの位置づけの重要性が大変理解できました。</p>
<p>日常の取組に関わる評価と改善プランの作成し、その実践へと、反芻し質を高めることの大切さを実感できました。</p>
<p>自己点検・評価と達成度評価の全体的な流れ、タイムスケジュールがよく理解できた。</p>
<p>第4期認証評価に向けて、重要性と概要を理解することができました。</p>
<p>竹中先生が紹介してくれた数字(第一希望で入学した学生の比率など)が、具体性があったよかったです。</p>
<p>卒業生の品質保証と入学生の確保が相容れない状況であることの認知が最優先課題であると考える。</p>
<p>大学を卒業しても社会の役に立てるよう、授業内容をより良い質の高いものにしていけるよう職員として日々研鑽に努めてまいりたいと思います。</p> <p>先生方、ご講演いただきありがとうございました。</p>
<p>600名とやや参加者が少ないのは、興味を引きにくいテーマだからかと思います。とっつきにくいテーマですが極めて重要ですので、やはり皆さんに聞いてもらい必要がありますね。皆さまご苦労さまでした。</p>
<p>学生へのアンケートがなぜ行われているかがよく理解できました。</p>
<p>アンケートの意図が理解できました。毎年、学生への回答促しが大変ですが、100%となるよう努めます。また、学生も毎学期末にたくさんのアンケートがあり回答が負担だと思いますので、良いシステムができることを期待しています。</p>
<p>GPS-academic の分析については、全体の把握としては参考になりましたが、学部・学科としてのデータが地方キャンパスでは重要です。来年度の入試の広報活動方針に大きく関わりますので、そのタイミングより前に分析結果をお知らせいただきたいです。</p>
<p>当方の所属する学科は比較的新しいことから、DP と CP についてはある程度連続性があるように思っています。一方、アドミッションポリシーについては、各大学、学部学科でどの程度実態を反映しているのかが気になっています。また、学生に合わせた教育ということであれば、(現状でもある程度そのような傾向がみられますが)後々には大学初年度で高校レベルの学習にならざるを得ないような気もしていますが、そのあたりも勘案して徐々に見直していくということになるのでしょうか。</p>
<p>どちらの講演も大変聞き取りやすく、噛み砕いて分かりやすくご説明いただいたおかげで、大学に今求められていることが良く理解できました。本日はありがとうございました。</p>
<p>全体的な内容でしたので、あらためて俯瞰することができて、大変参考になりました。</p>

<p>認証評価の今後のスケジュールならびに対応すべきことにつきまして、よく理解できました。今後ものした内容の報告を定期的に行うことによって、自己点検の重要性が醸成されると思います。</p>
<p>学修成果の可視化とその可視化に基づく外部評価(客観的なエビデンス)が大学における教育において重視されていることが分かりました。これは、私が着任した2022年度の新任教員研修会で渥美先生がご講演されていた内容でしたので、いい復習になりました。アセスメントプランの件も非常に分かりやすかったです。学生自身が成長を実感する(…ができるようになった、と感じる)教育の実施は非常に重要と思いますので、その確認の意味でも研究室の学生が卒業する際には達成度評価を忘れずにするよう指導しようと思いました。</p>
<p>各種の目標設定については概ね客観的かつ論理的に行われているように思いますが、達成度等の評価については厳密さに欠けているように感じます。現在、根幹となるルーブリックを策定中とのことですので、客観的かつ論理的に適切な評価項目となるようご留意頂ければ、学部・学科の個別のルーブリックに均一性を持たせることになると思います。</p>
<p>現時点でも多くのポリシーやそれに対するフィードバックが必要となっているが、補助金獲得と大学の自由を交換する形でさらに多くの事務作業が課せられることがわかった。また再受験や退学を考えた学生が24%もいたことに驚き、しかしながら実行した学生は数%以下であることも知り、何が退学等を思いとどまらせたのかについても分析が必要だろうと思った。</p>
<p>IRを用いた自己点検・評価と達成度評価に関わる知見を深めることができました。有難うございました。その一方で、近年、こうした業務に関わる教員の負担増加がエスカレートしていることから、そもそも教育の質的向上、そのための研究の充実に必要な時間やマンパワー、心身の健康状態を確保することができなくなって、本末転倒な状況に陥りつつあることを強く感じます。文科省は現場のことをあまり理解できていないように思えます。近年における日本の国際的な学術業績の長期的低落傾向にも、こうしたことが無縁ではないように考えられます。評価システムが性悪説に偏り過ぎているように感じられます。</p>
<p>最終的な『成果』の部分なのですが、GPSやアンケートも大切かと思いますが、そのほかに社会とつながりを持てる評価基準はないものなのでしょうか。大学の意義としては、ただ講義を教えるだけであるならば、今はYouTubeでも学べますので、何か大学だからこそ価値があるものを得たとしなければ、成果にならないのではないかと感じてしまいます。そういう意味でも、理系であれば院進学者の増加や、院進学者が学会等でたくさん発表していることが大切な位置づけになるのではないかとと思うのですが、そのあたりはいかがでしょうか。</p> <p>また、大学の価値を上げるものとして、どのような人材が入学してくるかで、かなり方向性が決まってしまうのかと感じてしまいます。成果としては、排出が目標ではあると思いますが、どのような人材が確保できたかも一つの大学の価値の基準にはならないのでしょうか。そういう意味での、地域の高校訪問などの活動も、教員の評価や、高校訪問により入学につながったケースを可視化していくことも大切なのではと感じております。</p> <p>最後に、大変稚拙な意見であり、生意気ではあるかと思いますが、大学は高校と社会(企業や研究機関)を繋ぐ、ハブ空港になるべきなのではないかと感じております。そういう連携がとりやすい</p>

<p>ような、教育がいま求められているのではないかと、感じております。色々書いてしまいまして、誠に申し訳ございません。</p>
<p>竹中先生が『卒業生アンケート』のくだりで触れられてました、「教育効果の遅効性」というワードですが、社会的な評価を意識しますにとっても重要かと認識させて頂きました。なお今回、学生/卒業生アンケートに関しての各数値(パーセンテージ)も発表を頂きましたが、(失礼な表現にはなりませんけれども)脚色的? お苦しい事情も察せさせて頂きました。</p>
<p>ここ数年、毎年入試偏差値が低下し、学力と学習意欲に欠ける学生が増え、保護者にたいしても過剰なケアを強制される教育介護の現場とかけ離れている内容でした。</p>
<p>現場では、個々のタイミングで個々の目的説明と共に取り組みの依頼が来ます。目の前の業務が何につながっているのかイメージできぬまま、締切をクリアすべく急いで取り組まざるを得ないことも少なくありません。今日の研修を受講して少し全体像がつかめました。</p> <p>ベネッセのGPSアカデミックや卒業アンケートなどは、少なくとも導入時にはアセスメントツールとすることは意識しなかったのではないかと思います。アセスメントツールにできることは教職員にとってはメリットですが、学生にとっては必ずしもそうではありません。受検率や回答率をあげるには学生が納得できるメリットを提示する必要がありますが、その点については、導入時に行われた議論の積み残しがまだあるように感じました。</p>
<p>まずは各種の本末転倒を解消すべきでしょう。①助成金がうんぬん←日本では「卒業率が低くて中退率が高いと教育への努力不足」と判断されて助成金の減額となるが、本来は卒業率が低下して中退率が上がっても良いので教育水準を上げろというの正しい。②評価点検の重視←評価点検されるべきは文部科学省とその親玉の財務省の方です。専門性のある博士号もない、ただの公務員が許認可権をふりかざして、封建制時代じゃあるまいし、書類だけで偉そうに指図して、それに従うというのは主体性がなさすぎ。こちらから、「本学ではかくかくしかじかの研究・教育をするので、それを理解しなさい」という態度が必要です。大学は営利企業ではありませんから。</p>
<p>認証評価についてスケジュールを確認することができてよかったです。</p> <p>補助金や調査に関わる業務を行っているため、大学としての動きがどのように予定されているかということや、実態がどのようになっているかということを学ぶことができたため、役立てることができると感じました。</p>
<p>自己点検・評価と達成度評価にはつきものですが、IRを活用したとしても評価の点数稼ぎのための業績づくりにならないように、大学および個人の実質的なレベルとモチベーションのアップにつながる評価になってほしい。例えば、学生からの授業評価アンケートの点を上げるために単位判定を甘くして学生からの人気取りになっている授業などが見受けられ、授業内容の向上、学生の学力向上とは逆の効果を生んでいる。</p>
<p>今年度10月より学部の自己点検・評価委員会に入りました。現在、学部では10の基準に関して成果のとりまとめをしています。もし年度始めに、当該年度の目標を立て、年度末にその成果を自己評価する形にするなら、改善のサイクルが動かしやすいように思いました。私自身が委員会に10月より加わったからかもしれませんが、この時期に年度の成果を後追いする形でまとめる作業をしていま</p>

<p>す。もちろん単年度で成果が書きにく項目も多いと思いますし、変化に機動的に対応する際の足かせになってはいけないと思いますが、各規準に対応する具体的な年度達成目標のようなものがあると、自己評価が可能となり、改善のサイクルが回せるように思ったりします。ただ、事務作業の量は膨大となるため、その点の兼ねいで今の形になっていると思います。まだ委員となり半年なので、引き続き業務を見習い、文書の完成に尽力したいと思います。</p>
<p>IRという言葉は投資関係の意味しか知らなかったが、今回の講演で新しい意味を教えてくださいました。たくさんの情報が溢れていますが、それを分析、活用できるようにしていきたいと思います。</p>
<p>学生の英語力については、英語力の変化を比較的簡単に測定できるかもしれません。これはまた、カリキュラムの変更が効果的であるかどうかのフィードバックにもなります。ただし今のところ、1・2年生における学生の英語力の変化を適切に測定できていません。学生の英語力があまり向上していない可能性があります、それは私たちが英語教育の改善を試みる動機となります。覚えておかなければならないのは、保護者または本人が学費を支払っており、学生は私たちに自分たちの時間を委ねているということです。したがって、英語力の変化を測定する必要があります。</p>
<p>英語力を測定するためには①入学時、②1年生の終わり(1月または2月)③2年生の終わり、というふうに3回行う必要があります。測定はTOEICの使用をお勧めします。私は、近大が現在TOEIC Bridgeを使用していることを理解していますが、学生の平均偏差値は年を経るにつれて向上しており、1年生と2年生の終わりにTOEIC Bridgeを使用するのは適切ではありません。言語評価の専門家がテストの設定とデータの分析のプロセスを監視すべきです。私は国際的に言語評価の専門家として認識されています。</p> <p>https://journals.sagepub.com/editorial-board/tj https://scholar.google.com/citations?hl=en&user=yL_1NxsAAAAJ</p>
<p>私の日本語が失礼であれば申し訳ありません。日本語は私の強みではありません。</p>
<p>第4期認証評価に向けて対応すべきことが具体的にわかり、非常に参考になった。職員の立場から次回の認証評価に向けて準備していきたい。</p>
<p>世の中が変わるということは学生の意識、考え方も変わるのでそれに対応していくよう見直す必要があると感じた。</p>
<p>恥ずかしながら、最後にお話があったように、IRといえば「統合型リゾート」が思い浮かぶほど無知でした。今回の研修会で、自己点検・評価の重要性やAP→CP→DPをひとつなぎに考え設置・遵守させることで、よりよい評価を得てよりよい教育機関へと発展していけることが良く分かりました。勉強になりました。</p>
<p>勉強しない学生に対して大学が質を保証することは不可能では？</p>